

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12328

研究課題名（和文）Entr'acte Entertainment on the London Stage, 1660-1800

研究課題名（英文）Entr'acte Entertainment on the London Stage, 1660-1800

研究代表者

三好 力（Miyoshi, Riki）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・専任講師

研究者番号：30780788

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000 円

研究成果の概要（和文）：イギリス舞台における幕間はこれまで学術的にほとんど注目されてこなかった分野である。本研究課題では、1660年から1800年までのロンドンの舞台における幕間の発展について調査を実施した。プロジェクトの過程において、一次資料及び二次資料の広範な調査により、幕間に関する情報を収集した。本研究の成果として、学術論文を3本（そのうち2本は国際学術誌に掲載）と、2回の研究発表が挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

By drawing on a mass of historical and literary sources, this project has made an original contribution to knowledge by throwing light on the nature and changing content of entr'acte entertainment on the long eighteenth-century London stage.

研究成果の概要（英文）：In this project, I charted the development of entr'acte entertainment on the London stage from 1660 to 1800. Throughout the course of the project, I amassed information on entr'acte entertainment by extensively examining both primary and secondary sources. The findings of this research enabled me to publish three scholarly articles and present twice.

研究分野：English Literature

キーワード：Restoration Theatre Theatre History

## 1. 研究開始当初の背景

長い18世紀のイギリス舞台における幕間はこれまで学術的にほとんど注目されてこなかった分野である。この主題に関する専門書は存在せず、幕間に関する論文もごくわずかしかない。その一つとして、Moira Goff の「Actions, Manners, and Passions: Entr'acte Dancing on the London Stage, 1700-1737」(Early Music 26, 1998)がある。Goff の論文は18世紀初頭のロンドン舞台における幕間ダンスに関する優れたものであるが、ダンスは歌や動物の演目を含む多岐にわたる幕間の一部に過ぎない。同様に、Donald J. Rulfs の「Entr'acte Entertainment at Drury Lane and Covent Garden, 1750-70」(Theatre Annual 12, 1954)は、1750年から1770年までの20年間にわたる幕間の研究であるが2つの劇場に限定されている。これらの貴重な研究は、本研究課題に対する重要な前提となったが、同時にこの分野に関する学術研究が少ないことがわかる。従って、18世紀のイギリス舞台における幕間に対する包括的な調査の必要性が明白である

## 2. 研究の目的

本研究課題の目的は、イギリス舞台(長い18世紀)において幕間の包括的な演劇史を提供することにより、イギリス文学の領域に貢献を果たすことである。幕間は、この時代の観劇体験に不可欠な要素となり、観客はますます多様化した上演演目を求めるようになった。本研究では、歴史的および文学的資料を駆使して、1660年から1800年にかけての幕間の性質およびその変遷を精査する。この研究は、演劇史および18世紀イギリス文学の分野に対して重要かつ意義深い貢献を行うものである。

## 3. 研究の方法

本研究は年代順に構成され、それぞれの期間は以下の著名な5人の俳優および劇場支配人のキャリアに基づいて区分されている。彼らは、トーマス・キリグラー、トーマス・ベタートン、ジョン・リッチ、デイヴィッド・ギャリック、リチャード・シェリダンである。このような方法で、本研究は演劇の「時代」に整理されるため、長い18世紀における幕間の発展を明確に解明できる。又、課題を大きく4つに分けて調査した。1. 人員:この課題では、1660年から1800年までの幕間に関わった人員を詳細に調査した。これにおいては、Southern Illinois University Press から1973年に出版された16巻の著作『A Biographical Dictionary of Actors, Actresses, Musicians, Dancers, Managers and Other Stage Personnel in London, 1660-1800』を参考にしている。2. 上演:具体的には、上演の日付と内容を詳細に検討した。3. 観客:幕間に対する様々な観客の反応を時系列で記録した。観客の反応の情報源は、主に日記や手紙など収集している。4. 財務:財務記録は、劇場支配人が幕間にいくら費やしたかを明らかにし、それにより観客の好みの変遷を示す。

## 4. 研究成果

本研究の成果として、学術論文を3本(そのうち2本は国際学術誌に掲載)出版、さらに2回の研究発表が挙げられる。最初の発表は、エリザベス朝演劇研究会で行われ、「王政復古演劇

における幕間」という題目で、王政復古時代の幕間の発展に焦点を当てた。もう 1 つの発表は、日本英文学会第 96 回大会において、「Entr'acte Entertainment and Stage Rivalry in London, 1695-1708」という題目で行った。この発表では、少なくとも清教徒革命(1649-1660)以来、幕間が劇場制作において重要な役割を果たし、演劇作品と同等の重要性を持つに至ったことを示唆した。現在、この発表を学術誌論文としてまとめる作業を進めており、いずれの発表でも多くの励ましのフィードバックを受けた。

学術論文に関しては、私の論文「“Betwixt the Acts”: Entr'acte Entertainment on the London Stage, 1660-1700」(学術研究 71, 2023)がある。この論文は、王政復古期の幕間に関する詳細な調査を行い、17 世紀後半の期間において、幕間の発展は限定的であったことを示している。もう 1 本の論文「Joseph Haines and Tray the Dog」(Notes and Queries 70:1, 2023)では、王政復古期の俳優ジョセフ・ヘインズに関する研究に基づいている。ヘインズは、モリエールの『町人貴族』の初演で幕間娯楽を行ったことで歴史に名を残した人物である。この論文は、ヘインズと Tray という犬とのこれまで見過ごされていた関係を詳細に記述している。さらに、3 本目の論文「Animals in Restoration Theatre, 1660-1710」(Restoration and Eighteenth-Century Theatre Research 35, 2023)では、動物と舞台の関係、特に幕間における動物の利用についてさらに探究している。今後も、本研究課題から得られた研究成果を学術誌に発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 三好力	4. 巻 71
2. 論文標題 “Betwixt the Acts”: Entr’acte Entertainment on the London Stage, 1660-1700	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学研究	6. 最初と最後の頁 125~133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyoshi Riki	4. 巻 70
2. 論文標題 Joseph Haines and Tray the Dog	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Notes and Queries	6. 最初と最後の頁 33 ~ 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/notesj/gjac123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyoshi Riki	4. 巻 35
2. 論文標題 Animals in Restoration Theatre, 1660?1710	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Restoration and Eighteenth-Century Theatre Research	6. 最初と最後の頁 52 ~ 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5325/rectr.35.0052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 三好力	
2. 発表標題 王政復古演劇における幕間	
3. 学会等名 エリザベス朝演劇研究会	
4. 発表年 2023年	

1．発表者名 三好力
2．発表標題 Entr'acte Entertainment and Stage Rivalry in London, 1695-1708
3．学会等名 日本英文学会第96回大会
4．発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------